

「男女共同参画社会」と「防災意識」について



市では、市民生活や行政にかかわる課題などについて広くみなさんの意見を伺い、その結果を市政に反映させるため、毎年、市政アンケートを行っています。今回は、男女が区別なく、共に自分らしい生き方ができる「男女共同参画社会」と、安全で安心な暮らしのために不可欠な「防災意識」について意見を伺いました。アンケートは、二十歳以上の市民から無作為に選んだ一万人を対象に行い、三千七百十六人から回答（回答率三七・二％）をいただきました。

男女共同参画社会について

これからの社会では、女性も男性も、共に仕事や地域活動、家事などのあらゆる分野に平等に参画することが必要です。市では、平成五年に男女共同参画社会についてのアンケートを行いました。その結果を踏まえ、平成六年度に「女性施策プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に努めてきましたが、その後の社会の変化に伴い、現在、プランの見直しを進めています。今回のアンケートでは、最初のプラン策定時との意識の変化を見るため、平成五年のもの

同じ設問も設けました。その結果を今後のプランづくりに反映していく予定です。

役割意識

男女とも仕事をし、家事・育児を分かち合う

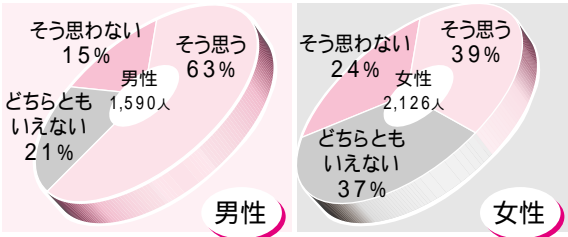
Q 「男は仕事、女は家庭」をどう思う？

「女性も仕事をする」と答えた人が八三%います。そのうち、男女とも仕事をし、家事・育児も分かち合うが六三%で、平成五年の四九%より増加。同回答の男女別では、男性の五三%に対し、女性

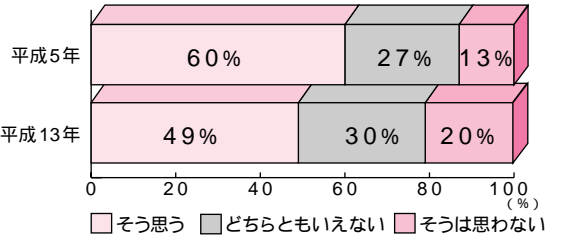
は七一%と高くなっています（グラフ）。「男女とも仕事はするが、家事・育児は女性」は一六%で、平成五年の二六%に比べて減少し、男女別では男性が二二%、女性は一一%となっています。年齢別では、高年になるにつれて「男は仕事、女は家庭」が増えていきます。前回のアンケートに比べて意識の変化が見られませんが、まだまだ男女別や年齢別で意識の差があることが分かりました。



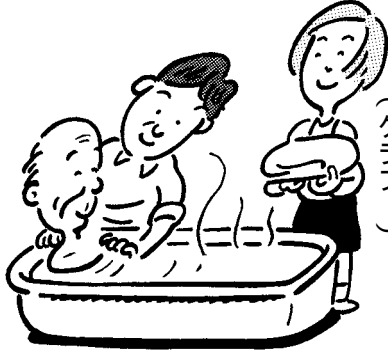
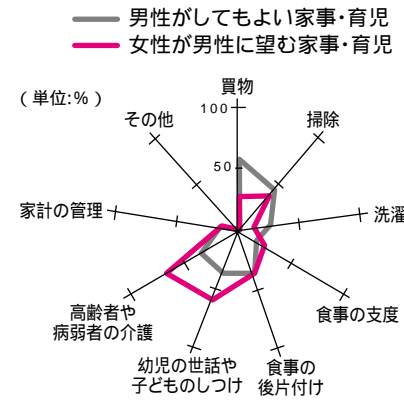
グラフ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」をどう思いますか？



グラフ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」をどう思いますか？(平成5年との比較)

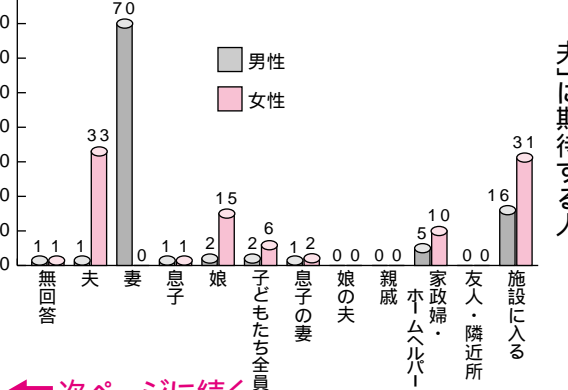


グラフ 「男性にしてみらいたい家事・育児」、「男性がしてみよと思う家事・育児」は?(3つまで)

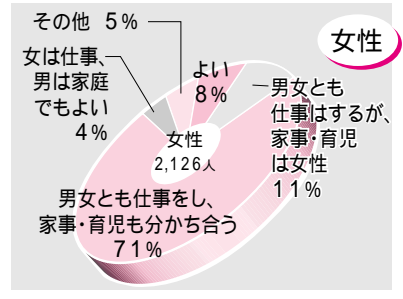
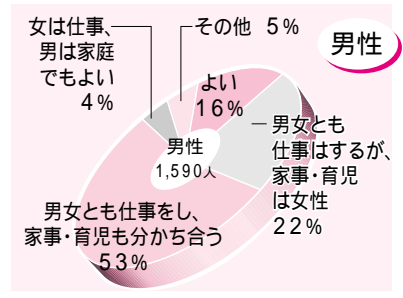


(グラフ) 男性では、圧倒的多数の七〇%の人が自分の介護を妻に期待し、二二%が「施設」や「家政婦・ホームヘルパー」と答えています。「子ども」に期待する人は五%です。女性では、「夫」に期待する人は三三%で、「施設」の三%と大差なく、一方で「子ども」に期待する人が二二%と男性に比べて多くなっています。

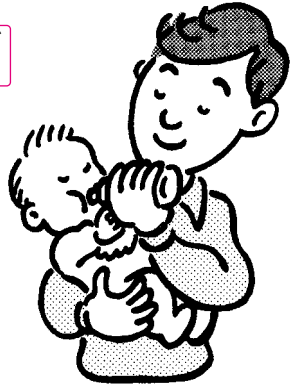
グラフ 自分の介護はだれに頼みたいですか？



グラフ 「男は仕事、女は家庭」をどう思いますか？



「男の子は男らしく、女の子は女らしく」をどう思う？
男女別では、男性の六三%、女性の三九%が男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるべきと答えています(グラフ)。年齢別では、七十歳以上の男性の七八%、女性の六四%がそう思うと答え、高年齢ほど割合が高くなっています。全体では、平成五年と比べて、そう思うが六割から五割に減少しています(グラフ)。が、男性にそう思う傾向がいまだに強いことが分かりました。



五年と比べると、男性の意識に変化は少なく、女性には家族の「介護」を男性に期待する割合が高くなっています。

家事、育児、介護の分担

家事・育児には女性が従事、男性には育児や介護を希望

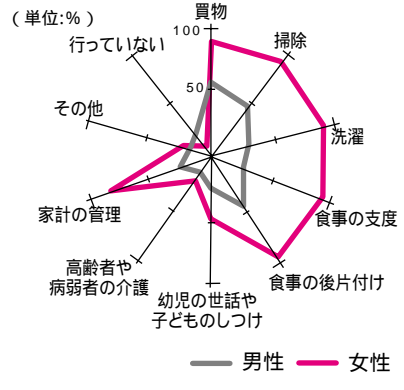
男性にしてみらいたい、男性がしてみよと思う家事・育児は？

女性にしてみらいたい、女性がしてみよと思う家事・育児は？
女性に男性に対して、高齢者や病弱者の介護や、幼児の世話や子どものしつけを期待する割合が高く、男性は買物、「掃除」、「洗濯」はやってもよいと思う割合が高くなっています。このように、女性と男性では考え方が異なることが分かります(グラフ)。平成五年と比べると、男性の意識に変化は少なく、女性には家族の「介護」を男性に期待する割合が高くなっています。

日常行っている家事・育児は？

家事は、男性に比べて圧倒的に女性の負担が大き(グラフ)。五十代ではほとんど一〇〇%に達しています。
子どものしつけは、三十代・四十代の女性の七五%以上が行っていますが、同世代の男性では三〇%程度となっています。

グラフ 日常生活で行っている家事は?(複数回答)

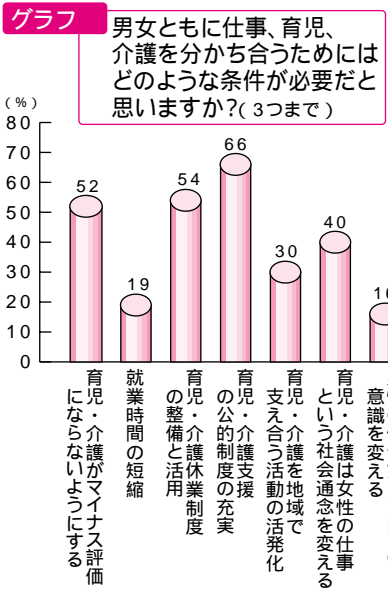


自分の介護はだれにしたい？

男性では、圧倒的多数の七〇%の人が自分の介護を妻に期待し、二二%が「施設」や「家政婦・ホームヘルパー」と答えています。「子ども」に期待する人は五%です。女性では、「夫」に期待する人は三三%で、「施設」の三%と大差なく、一方で「子ども」に期待する人が二二%と男性に比べて多くなっています。

Q 仕事、育児、介護を分かち合うためには？

「育児・介護支援の公的制度的充実」を望む人が六六%、「育児・介護休業制度の整備と活用」を望む人が五四%、「育児・介護に携わることが職場でマイナス評価にならないようにする」という人が五二%います(グラフ)。年齢別では、公的制度的の充実や地域での支え合いなどの社会的な扶助を望むのは高年ほど多く、職場における環境や条件整備を望むのは若い世代に多くなっています。また、「育児・介護が女性の仕事という社会通念を変えることが必要とする人は、どの年代でも四割程度います。



地域活動への参加

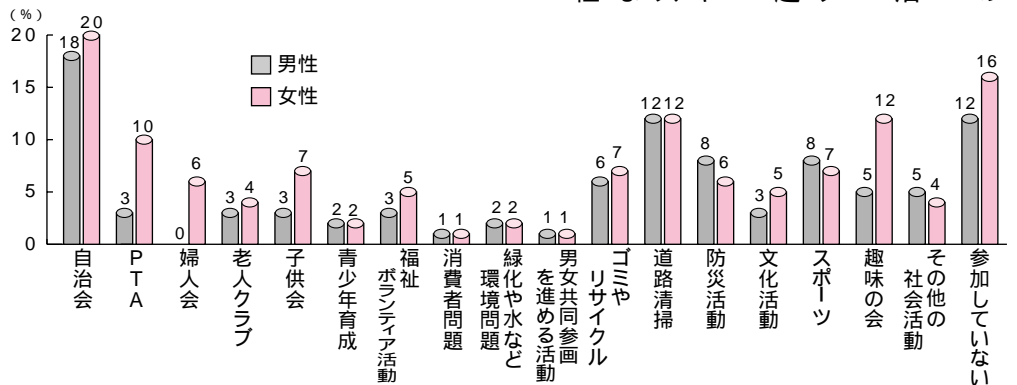
参加が多いのは自治会活動

Q どんな地域活動に参加していますか？

全体で約一〇%の人が地域活動に参加しています。その中で、「自治会活動」(三八%)と「道路清掃」(二四%)の割合が高くなっています(グラフ)。

フ)。次に参加の割合が高いのは、男性では「防災活動」、「スポーツ」、「ゴミやリサイクル」、「女性では「趣味の会」、「PTA」、「子供会」、「ゴミやリサイクル」、「スポーツ」の順になっています。女性と男性で参加している活動に違いが表れているものもあります。

グラフ 過去1年間にどのような地域活動に参加したことがありますか？



Q 地域活動に参加できない理由は？

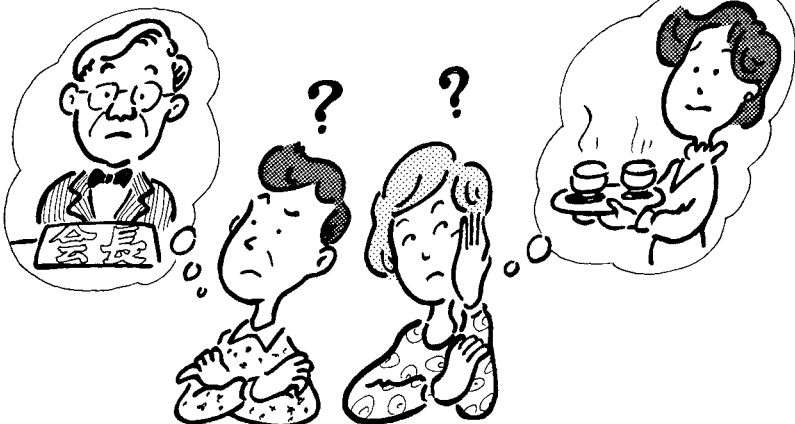
参加できない理由は「仕事が忙しい」が最も多く、男性で三五%、女性で二五%を占めています。次いで活動についての情報がないが多く、男性で一八%、女性で一五%あります。また、女性では、「家事・育児・子どもの教育に忙しい」という理由が男性に比べて多くなっています。

協力し合うために大切なもの

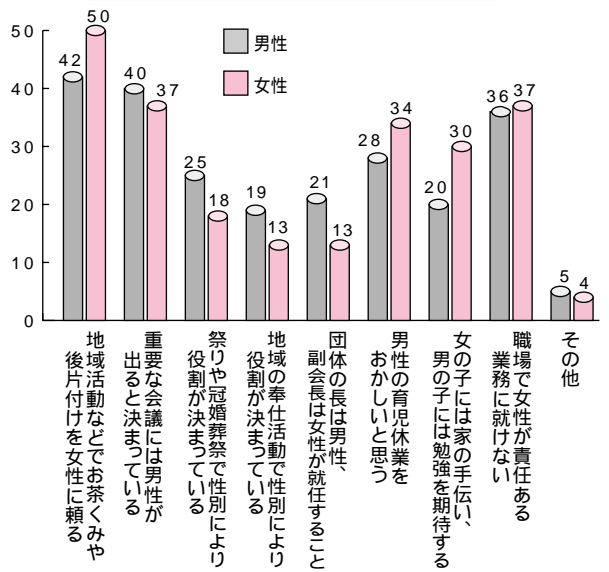
見直したい慣習は「お茶くみ」

Q 男女が協力し合うために見直したい「しきたり」は？

見直したいことは、男女とも「お茶くみ、片付けを女性に頼る」、「重要な会議には男性が出る」、「職場で女性が責任ある業務に就けない」ことと答えています。男女別に見ると、このほか、女性では「男性の育児休暇をおかしいと思う」、「女の子にはお手伝い、男の子には勉強」、男性では「男性の育児休暇をおかしいと思う」、「冠婚葬祭での役割」を見直すべきとしています(グラフ)。



グラフ 男女が協力し合うために見直すべき習慣やしきたりは?(3つまで)



性別による固定観念をなくし、個性が尊重される社会づくりを

平成十一年に、「男女の人権尊重」、「社会における制度・慣行についての配慮」、「政策などの立案・決定への共同参画」、「家庭生活とほかの活動の両立」などが盛り込まれた「男女共同参画社会基本法」が施行されました。市では、社会のあらゆる分野で男女が平等に参画する機会が確保され、男女の区別なく個性が尊重されることによって、自分らしい生き方ができる社会の実現を目指しています。このため、市民・企業・NPOなどの連携を図りながら、総合的に施策を進めていきます。

男女共同参画社会について アンケートの自由回答欄から

たくさんのご意見をありがとうございました

アンケートの自由回答欄にもたくさんのご意見をいただきました。ここでは、その一部をご紹介します。これらのご意見も今後の施策の参考にさせていただきます。

もっと女性の意見を市政に

女性ももっと市議会へ参加を母として、主婦として意見を述べる場がほしい家庭にいる女性の意見を反映し、生活に密着した市政にしてほしい

ひとり親家庭の生活安定を

児童扶養手当の額が一人でも二人でもほとんど変わらないのはおかしい生活が苦しいために実家で同居するようになったら、父の収入を合算されて児童扶養手当がなくなってしまうことに納得がいかない

個人を尊重する教育を

男女という性別にかかわらず、個人を尊重できる人間に育てていきたいと思う

男女の協力をもとに、その人らしい生き方も

男だから女だからというのではなく、仕事も家事もお互いに協力し合って、できる人がすればいいのではないか。個人によって向き不向きがあると思う

男性にも育児や家事に協力してほしい。子どもにとっても、良い影響があると思う

働く女性が地域活動へ参加できる体制を

仕事も家事もすべてしている人にとっては、日々の生活で精いっぱい、地域活動への参加は不可能に近い。女性が地域活動に参加できる体制が整っていないのが現状だと思う

仕事と育児が両立できる条件整備を

学校区に児童保育所がないので、共働きの私は仕事を継続するかどうか決断を迫られている病児保育室(カンガールーム)を市内に何箇所か増やしてほしい。また、時間の延長を希望する公立保育園は午前七時三〇分から午後六時までなので、フルタイムで働こうとすると利用できない

子どもを預けて働いても、収入のほとんどが保育料と税金でなくなってしまう。保育料の負担を軽減してほしい

近鉄四日市駅に0歳から預けられる託児所を設ければ、働きながら子育てをする女性が増えるのでは

女性が働きやすくなる施策を

女性のパート労働は不平等だと思う。税制度の見直しを

中高年の女性の雇用対策に力を入れてほしい

各グラフの構成比は小数点以下を四捨五入しており、合計と合わない場合があります。

防災意識について

地震や風水害など、いつ起こるか予測できない災害への備えや考え方について、みなさんに伺いました。

災害時の備え

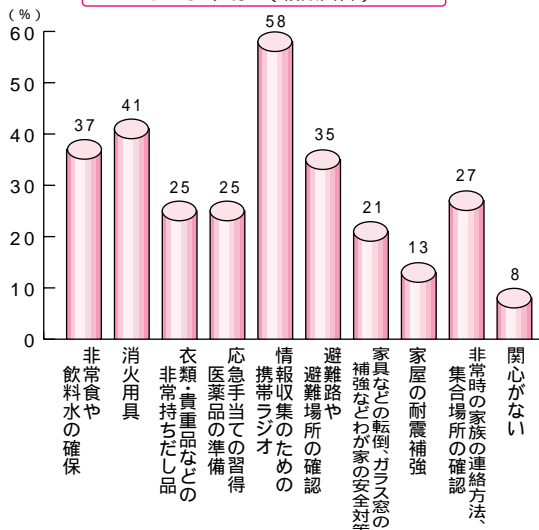
備えは、まず携帯ラジオ
防災訓練には半数近くが参加

Q 日ごろからどのような備えをしていますか？

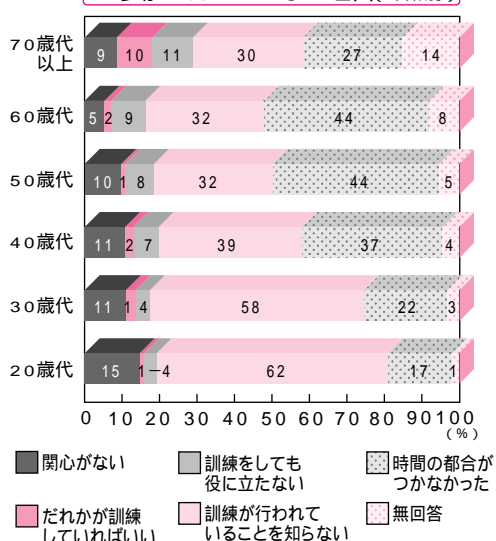
備えているのは「携帯ラジオ」が五八%と最も多く、次いで「消火用具」(四一%)、「非常食や飲料水」(三七%)の順で、「関心が無い」はわずか八%となっています(グラフ)。

非常食や飲料水はなるべく多く備えましょう。

グラフ 災害に対してどのような備えをしていますか？(複数回答)



グラフ 「市民総ぐるみ総合防災訓練」に参加したことのない理由(年齢別)



Q 参加したことがない理由は？

男女ともに「訓練があることを知らない」が最も多く、年代別に見ると、若い世代ほどその理由が多くなっています(グラフ)。

いざという時に頼りになるのは自分自身です。

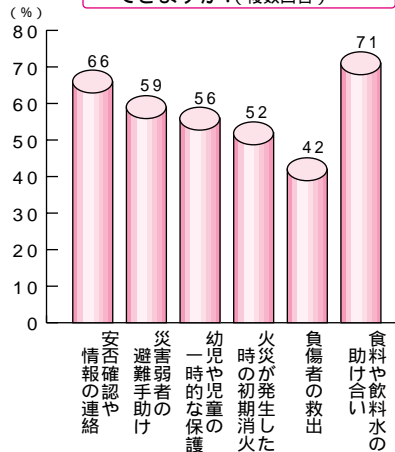
Q 防災訓練に参加したことは？

「参加したことがある」人は全体の四五%で、女性では、男性の五一%、女性の四一%が参加したことがあります。

特に水は飲むだけでなく、手などを洗ったりトイレを使用したりと必要です。また、携帯電話は、災害時には回線が集中してパンク状態になる可能性があります。情報の収集は携帯電話に頼らず、携帯ラジオを使用するようにしましょう。



グラフ 災害時にはどんな助け合いができますか？(複数回答)



「初期消火」が五二%となっています(グラフ)。



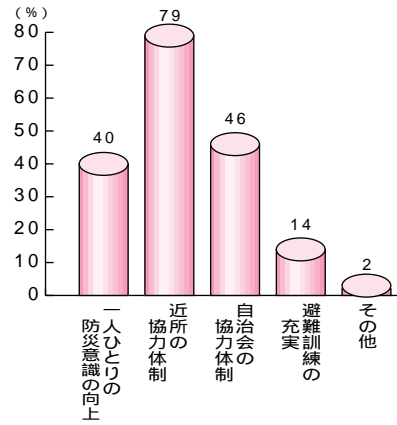
Q 災害時にどんな助け合いができる？

近所の助け合いを重視、情報は広報車よりラジオで

災害時の避難

また、お互いに助け合うことで被害を最少限にとどめることもできます。「だれかが参加すればいい」ではなく、ぜひ、防災訓練に参加しましょう。また地区の防災訓練に参加すれば、いざというときの避難場所も分かり、避難経路の確認もできます。

災害弱者が避難するために
どんなことが必要だと思いますか?(2つまで)



Q 災害弱者の避難に必要なことは?

「隣近所の協力体制」が七九%と最も多く、次いで、「自治会の協力体制」が四六%で、地域の助け合いが一番必要という意識が持たれています(グラフ)。

Q 避難指示はどのような方法で伝えてほしい?

避難指示が伝えられる方法については、「広報車が望ましい」とする人が六四%と最も多く、次いで、「地域の放送設備や防災無線」が二二%となっています。広報車の出勤態勢は整っていますが、豪雨時には雨戸を閉めていることなどによってスピーカーの音が聞こえないこともありまます。また、出水や陥没などで道路が寸断されて到着できないこともありますので、「FMよっかいち」や市のインターネット・ホームページなどをご利用ください。

災害時には自分自身の十分な備えと隣近所の助け合いが大切

災害時には、「三分以内の初期消火」、「三時間以内の救出」、「三分分の食料と飲料水の蓄え」の「三・三・三の備え」が大切と言われます。このため、消火用具や非常食・飲料水の確保などが大変重要です。また、隣近所での助け合いも大切です。自分の身を守るためだけでなくお互いに助け合ったためにも、防災訓練に参加するなど、日ごろから十分な備えをしておきましょう。

防災意識について

アンケートの自由回答欄から

最低限のご近所付き合いしかしていないので、万一の災害時にどのように対処していいかわかりません。

市から

災害時には、防災機関が全力でみなさんをお守りしますが、災害によっては十分な対応



ができないことがあります。そのため、隣近所との交流を深め、いざというときに、お互いが協力し合える環境をつくっていただくようお願いいたします。

八十代の老夫婦です。テレビで体育館などでの避難生活を見ますが、私たち年寄りにはとても無理なようで不安です。

市から

災害時には、まず体育館などの市内百十一カ所の収容避難所に避難していただきます。しかし、災害復旧に時間がかかる場合、収容避難所での生活が困難なお年寄りなどの災害弱者には市内四十三カ所の社会福祉施設を二

次避難所としてご利用いただき、生活を手助けさせていただきますので、ご安心ください。

いざという時に消防車や救急車が通行しやすいよう、日ごろから違法駐車対策に力を入れてほしいと思います。

市から

違法駐車は災害時の救助・救援活動の妨げになるばかりでなく、平常時でも他人の迷惑になることはもちろん、交通事故の原因となることもあります。このため、市としても警察とも協力しながら違法駐車対策に取り組んでいきます。なお、地震が発生した場合には、車を路肩に止め、キーを付けたままで車から離れてください。

各グラフの構成比は小数点以下を四捨五入しており、合計と合わない場合があります。